

3つのクラウドファンディング 各プロジェクトの内容と支援総額


① 天体撮影システム付望遠鏡を購入したい。

白井市で星空を、もっと身近に。24周年を迎える白井市文化センタープラネタリウムに、天体撮影システムつき望遠鏡を購入するためのプロジェクトです。

募集期間 H30.8/1~9/28迄
目標金額 **70万円** (当初 50万円)
支援総額 **79万426円** **目標金額達成!**

返礼品 ※内容は寄付額による
・寄附金受領証明書
・天体写真付きお礼カード
・オリジナルクリアファイル
・ご支援者様限定の特別観望会を実施

2つの仕掛けを施したお礼カード。80枚を職員で手作り!




② 神々廻市民の森の活動を応援したい!

市民プールにほど近い神々廻市民の森。森の存在をたくさんの人に知ってほしい、森で活動する団体を支援したいという思いから立ち上げたプロジェクトです。

募集期間 H30.8/27~11/9迄
目標金額 **44万8千円**
支援総額 **6万円**

返礼品 ※内容は寄付額による
・寄附金受領証明書 ・花の種 ・お礼状
・限定イベント ペア招待券
※限定イベントは「神々廻の森でカブトムシ捕獲会」などを検討中で、2019年夏の開催予定

花壇整備に協力する花市民団体が花の種を採取してくれました。



③ 「なし坊」と「かおり」に雨具をプレゼントしたい!

雨の日にイベントに出られずに悔しい思いをしていた、白井市のイメージキャラクターである「なし坊」と「かおり」に、みんなで「雨具」を贈るプロジェクトです。

募集期間 H30.8/27~11/9迄
目標金額 **10万円**
支援総額 **12万7,001円** **目標金額達成!**

返礼品 ※内容は寄付額による
・寄附金受領証明書
・なし坊、かおりからのお礼状
・雨具お披露目会 ペア招待券
・なし坊ファミリー文房具セット





【資金調達 2つの手法】 All or Nothing と All In

●実施期間中に支援金額が目標金額を達成した場合のみ、事業を実施するのが「All or Nothing」 → プロジェクト ① ③ で採用
※未達成の場合は決済がされない、または返金されます。

●実施期間中の支援金額は都度決済され、目標金額に達成しない場合も、事業を実施するのが「All In」 → プロジェクト ② で採用

準備段階で特に大変だったのは、訴求性や成功率の高さを考慮しながら、数あるプラットフォームの中から業者を選定する作業でした。決め手となったのは、サポート力。メールのやりとりが中心だからこそ、手厚いアドバイスしてくれた企業を採用しました。

企画財政部 しろいの魅力発信課 中島 大輔 さん



こうした経験の蓄積ができたCFの実施は、金額の多寡では測れない大きな収穫です。寄付金という形で集まる応援は何より職員を力づけ、魅力的なまちづくりの基となることでしょう。

個人的にも大きなプラス

CFの実施に先立って、各担当者はまずCFを支援者として体験してみようと、個人でCFに参加しました。各担当者が一様に語るの「自分でCFを体験してよかった!」という感想です。自ら寄付したプロジェクトへ関心が湧き、経過を楽しむ支援者側の気持ちが変わるようになったとのこと。他にも、他団体の取組内容を詳しく知ること、刺激を受け、自分たちの取組に活かすための勉強になった、一度アカウメントを作れば、敷居が高く感じた寄付が次々気軽にできるようになり、様々な取組に興味や広がった、実際に届いた返礼品の工夫に驚きや喜びを感じ、自分たちの返礼品のアイデアが湧いた、などと、多くの気づきを得ることができたそうです。

中島さんは「募集期間が残っているのに目標額を達成したことで、活動が止まってしまった。取組の意義やゴールを明確にして共感しやすい工夫をするだけでなく、達成状況に応じた対応を事前に想定しておくことが必要でした。ですが、CFで大切な、挑戦してみる勇気」が持てたことが一番の収穫です。」と締めました。

白井市

新たな財源の確保とそれぞれの事業の魅力を広く発信 3つのクラウドファンディング



白井市では、財源確保の一環として、クラウドファンディング(以下CF)という手法に着目し、今年度試験的に3つの事業でCFを実施しました。これは、インターネットなどで、実現したいアイデアやプロジェクト(事業)を広く紹介し、その実現に共感・賛同した人から支援を募るといった資金調達の手段です。

対象事業には一般の人が受け入れやすい、わかりやすい内容のものとして「天体撮影システム付望遠鏡を購入したい」「「なし坊」と「かおり」に雨具をプレゼントしたい」「神々廻(ししば)市民の森の活動を応援したい」の3つを選定しました。

CFの輪を広げたい

市が新たな取組にチャレンジしたのは、行政として率先してCFを実施していくことで、市民団体の活動や地域の産業にも活用を即したいという思いもありました。

参考にしやすいように、目標金額を10万円と50万円程度に設定。異なる募集方法(All or Nothing と All In)を採用するなど、パターンを分けて、3件のCFを一齐にスタートしました。

また、今回の経験を伝えるため、後日、市民活動の支援を行う「しろいの市民まちづくりサポートセンター」のスタッフをはじめとした職員向けの報告会を開催しました。

募集を終えて 温かい支援に感謝

白井市文化センタープラネタリウムでは、長く使うものを購入することで来館者に長く還元でき、PRにもなるということで望遠鏡の購入を目標にしました。CFでの支援に加え、窓口での募金も9万円に上り、目標金額を達成。「開館から24年の間に築いてきた来館者や観望会を楽しみにしていただきた皆さまとの強いつながりのおかげ」と同センターの岸下さん。

長谷川さんは、最新型の望遠鏡の素晴らしさについて「写真撮影付望遠鏡はネット環境に対応していてモニター画面に映るクリアな天体をご覧いただけます。見えないうものが見えてくる。楽しさを味わってほしい。新しい機材を使いこなして来館者へご支援を還元しなければ。私たちが大変なのはこれからですね。」と笑顔で語ります。

神々廻市民の森プロジェクトの達成率は10%でしたが、掲載ページの閲覧数は多く、1日で300件近くあった日も。「目標額には届きませんでした。ししば↓448と名前から目標額を決めたり、認知度の向上をメインと考えていたので、知られざる市民の森の周知には効果があったと思います。」と石田さん。さらに、支援者を招待

反省と課題 CFのポイントは

温かい支援により、全ての事業を実施できることになりましたが、課題も見えたところで「今まで紙媒体で着実に相手に届く方法で情報を発信してきたが、CFはインターネット上で行われるもの。それに対応した広報力が弱かった。次にCFを行う際は、SNSなどを積極的に使っていきたいです。」と岸下さん。

石田さんは「神々廻市民の森プロジェクトは他の2件と違い、集まった金額で来年度の事業を充実させるもので、共感できるゴールがなかった。具体的な使い道を提示できれば結果は変わっていたかも。」と考